

I

# インテリアコーディネーターの 誕生と背景

Q1-1

難易度

B

時間の目安

5分00秒

出題

H26-1

A1-1

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒

生活の起居様式の変化に関する次の記述を読み、ア～エの設問に対して、それぞれの下に記した語群の中から最も適切なものを選んで、解答欄の番号にマークしなさい。

我が国における住宅の近代化に大きな影響を与えた要素に生活の起居様式の変化、すなわち、ゆか座式からいす座式への変化があった。またそれは、「公私室の分離」の考え方と相まって、従来の間取りの型とは異なった新しい型が取り入れられ定着してきた。以下はこのような日本の住宅の近代化についての設問である。

ア 住宅の起居様式がゆか座式からいす座式に大きく変化した時代はどれか。

【語 群】 1. 大正時代                      2. 昭和初期                      3. 昭和30年代

イ 住宅をゆか座式からいす座式へと変えるきっかけとなった空間はどれか。

【語 群】 1. 応接間                      2. ダイニングキッチン                      3. 個室

ウ 公私室の分離と起居様式の変化によって発展し一般化した間取りの型はどれか。

【語 群】 1. ワンルーム型                      2. 中廊下型                      3. n + LDK型

エ このような住宅の近代化の流れにおける公私室分離の普及によって人々の住意識にも大きな変化が現れた。それは何か。

【語 群】 1. 部屋ごとにインテリアを整える意識  
2. 多世代で住む意識  
3. 耐久性を高めて長期間住み続ける意識

ア 昭和30年代、「1世帯1住宅」を目標に、住宅不足解消のため国を上げての取り組み、住宅供給制度を整備したことにより、欧米式のいす座式生活様式に変化していきました。(第1章)

イ 第二次世界大戦後、公団住宅で、食寝分離を基本とした2DKプランのコンクリート造アパートが採用されたことが、ゆか座式からいす座式へと変化するきっかけになりました。(第1章)

ウ 一人一室、ゆか座式からいす座式へ変化したことにより、n(個室) + L(居間) D(食事室) K(キッチン) という間取りが発展しました。(第1章)

エ 各室の使用目的が明解になったことにより、部屋ごとの目的にあったインテリアを整えることを人々は意識するようになりました。(第1章)

Q1-2

難易度

B

時間の目安

5分50秒

出題

H27-1

A1-2

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒

次のインテリアコーディネーター誕生に関する文章を読み、ア～エの記述に対して、それぞれの下に記した語群の中から最も関係ないものを選んで、解答欄の番号にマークしなさい。

昭和30年から昭和40年ごろの住宅大量建設期に始まった集合住宅や工業化住宅の展開は、新たに芽生えたライフスタイルや合理的な住まい方への志向とあいまって、インテリア産業を大きく発展させた。それは日々人々の豊かな暮らしを支える生活空間、即ちインテリアを生み出す産業でもあった。そして、急速に拡大したそれらの産業は生産部門だけでなく、流通、販売、施工、管理なども整備される必要があり、そこに関わる多くの人材が必要となった。そのような社会背景の中で誕生したインテリアコーディネーターは、我が国のインテリア産業の成長に大きな役割を担ってきた。

ア 新しい住まい方への志向

【語群】 1. ゆか座様式      2. 公私室の分離      3. インテリア意識

イ インテリア産業が発展した背景

【語群】 1. 住宅産業  
2. 部品・部材の工業化（産業）  
3. IT産業

ウ 公営住宅は主に集合住宅として、建設、大量供給された。その供給に大きな役割を担って開発された住宅設備機器等

【語群】 1. 給湯器      2. 冷暖房設備機器      3. 厨房設備機器

エ インテリアコーディネーター誕生の背景

【語群】 1. インテリアエレメントの多様化  
2. 住宅の大量供給期  
3. 住宅インテリアの高級化

- ア **生活改善運動のテーマの1つとして、ゆか座様式からいす座様式に推奨されたのは、大正時代です。** (第1章)
- イ 住宅大量建設期には、大量に供給するために部品や部材の工業化が進み、これらを組み合わせて住宅を組み立てていく方法で住宅産業が発展しました。これによりインテリア産業も発展していきました。 (第1章)
- ウ 公営住宅には、食寝分離を基本とした2DKプランを採用したため、キッチンが充実するようになり、厨房設備機器や給湯器が開発されました。 (第3章1節)
- エ 住宅の量的供給期には、インテリアエレメントも多様化したので、生活者が求めるさまざまな要素や要求を多くの商品や工法から選び出し提案する、インテリアコーディネーターが必要とされるようになってきました。 (第1章)